

## 簡易盤台の作設と 玉切装置の改良 (724.716)

真室川署・製品事業所 ○後藤 繁  
渋谷 邦夫  
山内 久光

### はじめに

真室川署の生産事業は二事業所で、平成元年度は夏山6セット、冬山9セットですが、造材作業の安全確保、振動障害対策、造材作業および仕訳の効率的な実施のため、盤台作設による玉切装置の使用は全セットで実施しています。

#### (1) 盤台の作設について (スライド1)

これまでは、地表を整地したうえで架線の組み立て後、通直な台木となる全幹木を集材機で運搬伏設し、それに板を敷いたカスリ盤台(幅3.65m、長さ30m)が主体で3日程度、また組立盤台では4~5日程度を要しており、労力の無駄や安全上の問題点の排除のほかに、経費の節減や期間の短縮が生産性に大きなウエイトを占めているので、自署の指導や他署の盤台作設等を参考にしながら、より簡易な盤台の作設を検討しました。

#### (2) 玉切装置について (スライド2)

鋸断箇所が盤台上の枕木付近になった場合、玉切装置のフレーム前部が支障となって玉切装置が枕木を跨ぐことができないため、材を人力で移動させて造材しており、時間ロスの解消と労働力軽減のため改良に取り組みました。以上の2点について報告します。

### 1. 簡易な盤台作設の取り組みについて

#### (スライド3)

盤台は、地表面と板の固定に古い盤台板を1.82m間隔程度に置いて、その上に幅2m程度の板敷とし、玉装が動ける最小の幅としました。

その結果、①台木の必要がない。②通直全幹材の選木、集材機による運搬伏設の必要がなく、より安全である。③架線組立に関係なく作設ができる。

④期間の短縮と労力の軽減を図ることができました。

(スライド4)

ローダー仕訳の可能な箇所については、地表を階段状に切取る盤台や、高さのある組立盤台ではなく、平地に直接20cm程度の台木を組み、その上に板を敷く盤台を作設することによって、経費の節減(切取作設より1万円)、及び作設日数の短縮(組立盤台に比べ約3日)を図ることができました。

## 2. 玉切装置の改良について

「改良に際しては、営林局を通じてメーカーの了解を得て行いました。

メーカーのご協力に心から感謝申し上げます」

(スライド5)

搬入材を載せている枕木の付近に鋸断箇所が重なった場合は、これまでも枕木の太さを可能な限り細くするなどの工夫をしてきましたが、盤台面と玉切装置のフレームの高さが10cmよりない等、どうしても材を移動しなければならないため、その対策として (スライド6) フレーム前部を11cm上に移動させました。

その結果、①材を移動しなくても枕木付近の造材が容易にできた。

②直接工期比較はしていないが造材時間の短縮、労力の軽減となっている。

## おわりに

本年度事業実行途中で考察、考案したもので全く資料に乏しいのですが、従来の方法に比べて種々の利点があり、現場では好評であります。

今後とも創意工夫して (スライド7) 短期間に組立可能な盤台作設や、玉切装置の車軸を改良すればどうなるのか等も含めて安全で効率的な作業を進めるために努力していきます。